

韓国語の補助動詞 [- 어 보다] [- 고 보다] の意味構造 — 構文的再解釈の観点から —

関 由 眞

1. はじめに

韓国語には日本語の [てみる] に対応すると見られる形態に [- 아 / 어 / 여 보다 a/e/ye pota]¹ と [- 고 보다 ko pota]² の二つがある。この二つの形態はその意味と用法において微妙なズレや重なりを見せるため、韓国での国語研究においても両者の区分は明確なものではなく、未だ意味規定に不十分な部分があり、韓国語学習者にとってその意味用法を確実に捉えることは容易なものではない。

前述の通り、[어 보다 e pota] [고 보다 ko pota] は日本語の「てみる」に対応する形態であるが、この対応の様相は同様のものではなく、[어 보다 e pota] は意味的にも、形態的にも、日本語の補助動詞 [てみる] に概ね合致するのに対し、[고 보다 ko pota] の場合は [てみる] の持つ「試行」の意味は持たず、「行為を行い、結果をみる」という意味を持つとされる。よって、両者は意味的に区別される二つの形式として扱うべきものであるが、その違いは明確に掴めるものではなく、現在に至るまでも両者の用法や意味については混乱が続いている状況である。

[어 보다 e pota] [고 보다 ko pota] は通常日本語の「テ」連結に対応するとされる二つの連結語尾 [어 e] と [고 ko] に視覚動詞 [보다 pota] が後続する形態である。これまでの韓国語の研究において、[어 보다 e pota] [고 보다 ko pota] は比較研究の対象としてはあまり取り上げられておらず、数少ない研究はあるものの、その殆どが両者を挙げ、各項目の持つ意味を別々に記述する段階に留まっている。その一つの理由として考えられるのは韓国語の分類において、通常 [고 보

다 ko pota] は補助動詞としては分類されておらず、連結語尾 [고 ko] と動詞 [보다 pota] の並列な結合であるとされてきたことが原因で、比較の対象として注目されることはなかったという点である。しかし、前述の通り、[어 보다 e pota] [고 보다 ko pota] は両方とも日本語の [てみる] に対応する形として扱われており、日本語を母語とする韓国語学習者の立場から考えても、この二つの形式は「Vてみる」の形式に対応するものとして認識され、学習における困難を招いている現状があるため、[어 보다 e pota] [고 보다 ko pota] と [てみる] の対応関係を明確にすることが切実に要求される。

[어 보다 e pota] [고 보다 ko pota] の意味用法を考える際、「先行する連結語尾が異なる」という点は連結語尾の意味機能そのもの、あるいは連結語尾の構文的な特徴とそれに後続する [보다 pota] とのインターアクションが [어 보다 e pota] [고 보다 ko pota] の意味規定に何らかの影響を与えていることを示唆するものである。

以上を踏まえ、本稿では連結語尾の機能と後続する動詞「보다 pota」の持つ意味との関連性、そして両者が出現する文環境による意味規定という点に重点を置きながら、分析を行っていく。

2. 主な先行研究の検討

実際の分析に入る前にまず本稿の分析対象である [어 보다 e pota] [고 보다 ko pota] の比較をしているいくつかの先駆的な先行研究を挙げてみることにする。

2.1 生越(1991)の研究

生越は [어 보다 e pota] [고 보다 ko pota] と [てみる] を対照し、韓国語と日本語の対応関係を論じ、これにより [어 보다 e pota] と [고 보다 ko pota] の間の意味の違いを明確にすることを試みている。

- ①目的のためにある動作を試みる
- ②ある動作を経験する
- ③動作後の状態を確認する

生越はまず、[어 보다 e pota] の意味を以上の三つに分類し、意志性を持つ動詞の後に [어 보다 e pota] が続く時は主に①の試行の意味を持ち、非意志性の動詞の後に用いられた場合には②と③の意味を持つとする。また [고 보다 ko pota] については主に動作や状態変化後の結果、特に予想外の事態に関する確認を意味すると述べている。[てみる] との対応関係においては、[어 보다 e pota] が [てみる] の「試行」や「動作後の状態確認」の意味と対応し、[고 보다 ko pota] は「状態変化後の状態確認」の意味と対応すると述べる。しかし、生越の研究は基本的に [어 보다 e pota] [고 보다 ko pota] と [てみる] の意味的な対応関係に焦点を当てているものであり、[어 보다 e pota] [고 보다 ko pota] の意味的違いに関する記述はあるものの、両者の意味区別に関する問題には詳しく触れておらず、[어 보다 e pota] [고 보다 ko pota] が複文の環境で用いられる際に共通して生じる「状態確認」の意味を持つ場合、両者にどのような差があるかに関しては明確ではない。また、[てみる] との関係においてもどのような要因が [어 보다 e pota] [고 보다 ko pota] との対応に影響するのかに関しての言及はない。

2.2 손 세모들 (1996) の研究

손 세모들은 [어 보다 e pota] を以下の四つの意味グループで分類する。

(1) 試行

- a. 일단 여기서 취해 보자
iltan yekise chwih-ay poca.

一旦醉てみよう。

b. 집에 전화를 걸어 봤다

cipey cenhwulul kel-e pwassta.

家に電話をかけてみた。

(2) 経験

a. 나도 어제 그 사람 만나봤어.

nato ecey ku salam mann-a pwasse

私も昨日その人に会った。

b. 넌 평생 이런 모욕을 받아 본 일이 없을거야.

nen phyengsayng ilen moyokul pat-a pon ili epsulkeya.

君は一生このような侮辱を受けたことはないだろう。

(3) 假定 (命令形)

a. 그 녀석이 권력만 잡아 보라. 너 같은 건 안중에도 없을걸.

ku nyesekei kwenlyekman cap-a pwala. ne kathun ken

ancwungeyto epsulkel.

あいつが権力を握ってみろ。お前みたいなのは眼中にもないだろう。

(4) 婉曲

a. 환자 모시고 한번 나와 보세요.

hwanca mosiko hanpen naw-a poseyyo

患者を連れて、一度来てください。

b. 그럼 가 보겠습니다.

kulem k-a pokesssupnita.

では失礼します。

손 세모들은基本的に [고 보다 ko pota] を補助動詞として認めない、換言すれば、単純かつ並列的な V1 と V2 の結合であるという立場を取っているので、研究の中でも [고 보다 ko pota] と [어 보다 e pota] との比較はなされていない。ただ特徴的なのは [어 보다 e pota] の意

味の中に婉曲用法があるという主張をしているところである。しかし、손 세모들의研究も [어 보다 e pota] の用例を羅列し、その意味を解説した程度のものであり、構文と [어 보다 e pota] そのものの意味との関係や [어 보다 e pota] の中心的な意味とその意味の根底に関する言及は成されていないものである。

2.3 호 광수 (2003) の研究

補助用言の [보다 pota]³に関する研究で [어 보다 e pota] [고 보다 ko pota]、さらに疑問形語尾に後続する [보다 pota] に至るまで幅広く触れており、補助用言として用いられる [보다 pota] 類の全体像を捉えることを試みている。しかし、細部の分析をみると、構文構造とのインターアクションから生まれる意味の再解釈をも補助動詞が担うものとして分析するという過ちを犯しており、構文構造と分離した補助用言の中核的な意味を明確にすることには至っていない。[어 보다 e pota] [고 보다 ko pota] に関してだけ言えば、様々な文における例文を提示しているにも関わらず、条件文などの環境で共に適格に用いられる場合とそうでない場合に関してどのような制約があり、なぜそのような現象が起きるのかについての説明はなく、出現においての適格性に違いがあるという指摘だけで終わっているため、未だ両者の区別は曖昧なままである。호 광수는 [어 보다 e pota] は「試行」と「経験」の意味を持ち、[고 보다 ko pota] には「強い試行」と「結果」の意味があるとしているが、両者が持つとされる試行の意味がどのように違うかという点について「程度の差」という説明しか与えておらず、また [어 보다 e pota] の持つ経験と [고 보다 ko pota] が持つ結果という意味がなぜ生じたのかについての説明も見当たらないことなどが問題点として挙げられる。

호 광수는 [어 보다 e pota] に先行する動詞が意志性を持つ場合、[어 보다 e pota] は試行の意味を持ち、「経験」の意味として分類される場合は主に意志を持たない動詞が先行するが、意志動詞の出現も

不可能ではないと述べている。

- ① 물어 봄직한 사람을 골라 보았다 (試行)
mwule pomcikhan salamul koll-a poassta.
聞いてみる人を選んでみた。
- ② 나도 권투 시험에서 맞아 보았다 (經驗：無意志動詞)
nato kwenthwu sihapeyse mac-a poassta.
私もボクシングの試合で殴られたことがある。
- ③ 한번도 편히 누워 본 적이 없다 (經驗：意志動詞)
hanpento phyenhi nwuw-e pon ceki epsta.
一度も気楽に横になってみたことがない。

また、[어 보다 e pota] が、「假定」や「願望」などを表す用例があるとし、次のような例を挙げている。

- ④ 우리에게 힘이 있어 봐. 누가 우리를 깔보겠어? (假定)
wulieykey himi iss-e pwa. nwuka wulilul kkalpokeysse?
我々が力をつけてみる。誰も甘くは見てこないぞ。
- ⑤ 나도 한번 입을 봤으면 좋겠다 (願望)
nato hanpen ip-e pwassumyen cohkeyssta.
私も一度着てみたい。

しかし、以上の分類は [어 보다 e pota] と [고 보다 ko pota] の意味の中核的な部分を把握したものとは言えない。例えば、前述の⑤の例に見られる願望を表す用法は [어 보다 e pota] に後続する「았/았으면 좋겠다 ess/ass-umyen cohkessta (～したらいい/～したい)」という、そもそも願望を表す文型との共起によって現れるものであり、補助用言の意味内容ではないため、「願望」の意味を [어 보다 e pota] そのものの意味として扱うことには大いに疑問が残る。また、

命令形に用いられる [어 보다 e pota] も命令形そのものが「仮定」を表すことができるので、構文の意味との関連性からの説明が乏しいことが補助動詞の意味を規定する際の混乱を加重していると思われる。また、以上挙げた、いずれの研究においても補助動詞と本動詞の意味的な関連性については触れられていない。

結論的に従来の研究における [어 보다 e pota] と [고 보다 ko pota] の比較分析は両者の全体像を捉えたものではなく、文構造、あるいは補助動詞の構文的特徴、つまり異なる連結語尾の違いなどを考慮に入れての新たな分析が必要であると考えられる。

3. 連結語尾 [어 e] と [고 ko] の結び付きの様相

前述の通り、本稿の分析対象である、[어 보다 e pota] と [고 보다 ko pota] は [어 e] と [고 ko] の二つの異なる連結語尾と視覚動詞 [보다 pota] が結合した形であるため、二つの異なる連結語尾が両者の意味形成に影響を与えるとみるのは妥当な推論であると考えられる。まずは二つの連結語尾がどのような機能を持つかについて触れておきたい。

[어 e] と [고 ko] は韓国語文法の伝統的な分類では「連結語尾」と呼ばれ、「二つ以上の文章や単語が連結する時、先行文の動詞に付き、一つにつなげる役割をする」としており⁴、連結語尾の中での分類として一般的に [어 e/ 어서 ese]⁵ は従属的な関係に、また [고 ko] は対等な関係に用いるとしている。従属的な関係と対等な関係とは次のような区別を指すものである。

[고 ko] : ①二つの事態を単純に羅列する。

②二つの事態が同時に発生した時に使う

③二つ以上の事態が時間的前後関係を成す。

④二つ以上の事態において前項が後項の根拠や理由になる。

[임호빈他 (2003) p.172]

[어(서) e (se)] : ①先行文が後行文より時間的に先に行われる。

但し、先行文の状態をそのまま維持しながら、後行文の動作を続けるという意味を持つ。

②先行文が後行文の理由や原因を表す。

[임호빈他(2003) pp. 208-209]

以上を整理すれば、基本的にこの二つの連結語尾は共に時間的な前後関係を示す機能を持つが、大きな違いは [고 ko] は時間的に連続している先行文と後行文との間の事態の連続は含意していない反面、[어 e] の場合は先行文の事態の動作や状態を保持した上で後続する文の事態が生じるということにあるということである。[어(서) e(se)] の下線部の「先行文の事態を保持しながら、後続する事態が生じる」とはどのような意味であるかを明確にするために次の例文を提示する。

(1) a. 집을 팔고 차를 샀다.

chipul pal-ko chalul sassta.

家を売って車を買った。

→ 家を売って（関連性のない出来事として）車を買った。

b. 집을 팔아(서) 차를 샀다.

chipul pal-a(se) chalul sassta.

家を売って車を買った。

→ 家を売って（そのお金で）車を買った。

以上の例は (1a)-(1b) 両方とも時間的前後関係を表すという点は共通するが、意味解釈において (1a) は先行文と後続する文を別々の出来事として捉えており、関連性のない物事の単純羅列として理解されるのに対し、(1b) の文は先行する事態と後続する事態を互いに関連性のあるもの、つまり連続した事態として捉えている。このような連結

語尾の特徴は V1 — V2 の連結においても一貫して見られる。

- (2) a. { * 먹어 / 먹고 } 마시다.
 { *mek-e/mek-ko } masita
 食べて飲む
- b. 돌에 { 걸려 / * 걸리고 } 넘어지다.
 toley { kely-e/*keli-ko } nemecita
 石につまずいて転ぶ
- c. 상자를 { 들어 / ? 들고 } 나르다.
 sangcalul { tul-e/ ? tul-ko } nallassta
 箱を持ちあげて運んだ。

以上の V1 — V2 の結合を観察してみると、(2a) は時間の前後関係の羅列に過ぎないが、(2b) は「石につまずいた」ことが「転ぶ」の原因として捉えられる<原因—結果>の例文であり、(2c) においては「箱を持ちあげる」と「運ぶ」は<手段—目的>の関係を成すとみることが出来る。

<原因—結果>であれ、<手段—目的>であれ、時間的な前後関係がより密接な関係として認められる場合に読み取れるものであるが、例文 (2b)-(2c) の V1 と V2 の間には密接な関連が認められ、このような場合、連結語尾 [고 ko] を用いる文は全て非文となることが確認できる。⁶

4. [어 보다 e pota] の意味構造

4.1 [어 보다 e pota] の「試行」

前述の通り、[어 보다 e pota] は最も一般的に「試行」の意味を表す補助動詞であるとされる。また、[고 보다 ko pota] と比較すると出現する文環境において、制約を受けない形式でもある。

- (4) a. 나는 친구집에 가 { 본다 / 봤다 / 보겠다 } (試行)
nanun chinkwucipey k-a {ponta/pwassta/pokeyssta}
私は友達のうちに行^てって {みる / みた / みる (つもりだ)}
- b. 먹어보니, 너무 맛이 있었다 (試行)
mek-e poni nemwu masi issessta.
食べてみると, とても美味しかった。

(4a) は文末において時制の制約を受けず、全てが適格な文となっていることが分かる。また [어 보다 e pota] は複文の環境にも現れ、複文の用例で最も多いのは [니 ni] で接続される複文である故、その代表例として観察してみると、(4b) の場合においても意志動詞「食べる」に後続し、「試行」の意味を表しながら、構文の特性から「とても美味しかった」という「試行」の結果としての事実への認識をも表しており、本動詞 [보다 pota] との連続性を確認することが出来る。整理すると、意志動詞に後続する [어 보다 e pota] はその出現環境に制約を受けず、文末でも複文でも「試行」の意味を表し、適格な文として表れるということになる。しかし、[어 보다 e pota] を用いる文末用例の中には意志動詞に後続しているにも関わらず、「試行」の意味として解釈されない例も存在するようである。

- (5) a. 너 지금까지 바다 한 번도 안 와 봤어? (『겨울』)
ne cikumkkaci pata hanpento an w-a pwasse?
あなた今まで海に一度も来^てて^みな^かつたの?
→ あなた今まで海に一度も来^たことないの?
- b. 우린 미국 못 가 봐, 그런 간사스러운 짓은 죽어도 못한다고 양
탈을 했지만… (『아름다운』 : p.132)
wulin mikuk mos k-a pwa, kulen kansasulewun cisun cwuketo mos
hantako angtalul hayssciman …
我々はアメリカに行^つて^みられ^なくて、そんな歯がゆいことは

死んでも出来ないと突っ張ったが…

→ 我々はアメリカに行ったことがなくて、そんな歯がゆいことは死んでもできないと突っ張ったが…

- c. 나는 지금 국민학교 삼학년 밖에 안 됐는데 그 동안에 전학을 두번이나 해 보았습니다. (『아름다운』: p.188)

nanun cikum kwukminhakkyo samhaknyen pakkey an twessnuntey ku tongan cenhakul twupenina h-ay poassupnita.

私は今小学校三年生にしかなくてなのに、その間転校を二回もしてみた。

→ 私は今まだ小学校三年生なのに、その間二回も転校しました (したことがあります)。

この類の例文においての [어 보다 e pota] はある種の経験を表すことが確認される。特に (5b) の例は不可能を表す副詞「못 mos」を用いることにより、[어 보다 e pota] の経験の意味が浮き彫りになる。つまり、不可能を表す副詞との共起によって、[어 보다 e pota] に先行する動詞の意志性はなくなり、後述する非意志性動詞に後続する [어 보다 e pota] の「経験」の意味と同様の解釈に導かれるということになる。しかし、このような意志性の弱化あるいは解消が起こらない場合において、[意志動詞+어 보다 e pota] を「試行」の意味として捉えるかあるいは純粋な「経験」の意味として解釈するかは専ら出現する文脈によって決まると考えられる。例えば、(5a) の場合、直観的に読み取れる意味は「経験」としての意味であるが、ある文脈を与えれば、「来ることを試みたことがないのか」という意味として理解される可能性もある。また、(5c) の例は「まだ小学校三年生なのに」という前項がどのような意味に捉えられるかによって、後続する [어 보다 e pota] の解釈も、「(ためしに) 転校を何度もやってみた」という「試行」の意味にも、あるいは「(望んではなかったが) 転校を何度もした(ことがある)」という経験にも解釈可能である。従って、

「試行」と「経験」の意味は明確に区分されるものではなく、大変文脈依存的であると思われ、両者の間には揺れが見られる。しかし、このような揺れは [어 보다 e pota] に先行する動詞が無意志動詞の場合には解消される。(6a)-(6c) は文末に出現する [無意志動詞 + てみる] の例文であり、この場合、「試行」の意味は導かれず、[어 보다 e pota] は「(先行動詞の表わす内容を) 経験する」の意味のみを持つことが観察される。

(6) a. …수많은 경쟁을 거치는 동안 이겨도 보고, 쳐도 봤지만 15 대 1 이란 경쟁률은 처음이었다. (『아름다운』: p.110)
swumanhun kyengcayngul kechinun tongan iky-eto poko, cy-eto pwassciman 15 tay 1 ilan kyengcaynglyulul cheumiessta.

数多い競争を経る間、勝っても見て、負けてもみたが 15 対 1 という競争率は初めてだった。

→ 数多い競争を経験する間、勝ったこともあれば、負けたこともあるが 15 対 1 という競争率は初めてだった。

b. 가: 학창 시절에 야구 방망이로 맞아 봤어요? (『야심』)

hakchang siceley yakwu pangmangilo mac-a pwasseyo?

学生時代に野球バットで殴られてみましたか?

→ 学生時代に野球バットで殴られたことありますか?

나: 네, 그럼요, 맞아 봤죠.

ney, kulemyo. mac-a pwasscyo.

ええ、勿論、殴られてみましたよ。

→ ええ、勿論、殴られたことありますよ。

c. 그 미칠것 같은 심정은 정말 당해 보지 않고는 모를 거야.

(『타인』: p.263)

ku michilkes kathun simcengun cengmal tangh-ay poci anhkounun molul keya.

その気が狂いそうな心情は本当にやられてみなくては分からな

いだろう。

→ その気が狂いそうな辛い気持はやられたことのない人には
分からないだろう。

以上を簡単に整理すれば、[어 보다 e pota] は① 意志動詞に付く場合は「試行」あるいは「経験」の意味を持ち、② 無意志動詞に付く場合は「経験」の意味を持つことになるが、②においては例外が存在するようであり、無意志動詞あるいは無意志的な事態が先行する場合にも [어 보다 e pota] が「経験」の意味を表すことのできない例が見られる。

(7) a. *비가 와 봤다

*pika w-a pwassta.

*雨が降ってみた。

b. *비가 와 보니, 기온이 매우 쌀쌀하다.

*pika w-a poni, kioni maywu ssalssalhata.

雨が降ってみると結構肌寒い。

(8) a. *날이 밝아 봤다

*nali palk-a pwatta.

*夜が明けてみた。

b. *날이 밝아 보니, 주위에는 사람의 기척이라고는 없다.

*nail palk-a poni, cwuwieynun salamuy kichakilakonun epsta.

夜が明けてみると、周りには全く人がない。

(7)-(8)の「雨が降る」や「夜が明ける」などの自然現象に関わるような事態が [보다 pota] の前に位置すると [어 보다 e pota] を用いる文はすべて非文となることが分かる。しかし、前述したように [어 보다 e pota] は先行する動詞が意志動詞の場合は「試行」や「経験」を表し、受け身を含む無意志動詞の場合は主体のある事態への経験を

表す。無意志動詞が先行した場合は言い換えれば無意志的な事態を主体が経験するという意味を持つことになるが、上の例文での自然現象に関わる事態においても「雨が降る」や「夜が明ける」という事態を経験する主体は [어 보다 e pota] の認識主体でもあるだろうという当然の予測ができるため、これらが非文になるの是一見矛盾しているようにも見える。ここで(6)と(7)-(8)の例文の違いを指摘するならば、(6)の [어 보다 e pota] に先行する動詞は無意志動詞であっても、その主語は全て [어 보다 e pota] の主体と一致している。つまり、(6)の「野球のバットで殴られる」「やられる」などの状況は行為の経験者としての主語が [어 보다 e pota] の主体にもなっている。一方、(7)-(8)の場合は [어 보다 e pota] に先行する動詞「降る」「明ける」の主語はそれぞれ「雨」「夜」なので、[어 보다 e pota] の主体とは一致せず、この場合、[어 보다 e pota] を用いる用例は非文となる。このような事実から [어 보다 e pota] の成立要件の一つには、[어 보다 e pota] の主体と [어 보다 e pota] に先行する V の主語（それが行為者であれ、行為の直接経験者であれ）が一致しないといけないという制約があり、先に提示した [어 보다 e pota] の意味規定にこれを追加しなければならない。

このような観察を基に [어 보다 e pota] の用法を修正すれば、次のようになる。

[어 보다 e pota]

- ① 意志動詞に付く場合は「試し」及び「経験」の意味を持つ。
- ② 無意志動詞に付く場合は「経験」の意味を表すが、但し、[어 보다 e pota] の主体と [어 보다 e pota] に先行する動詞の主語が一致する場合にのみ適格に用いられる。

以上の考察から [어 보다 e pota] の意味・用法を整理したが、[어 보다 e pota] の用例の中には上に述べた一般的な定義ではその意味が

規定出来ない用法が見られるので、ここで提示しておく。

- (9) a. 그럼 저희는 나가 보겠습니다. 아버지, 먼저 가 볼게요.
(『겨울』)

kulem cehuynun nak-a pokeysssupnita. apeci, mence k-a polkeyyo.

では私たちは出てみます。お父さん、先に行ってみます。

→ では私たちは出ます。お父さん、先に行きますね。

- b. 점심 시켜놓구 왔어요. 금방 가 봐야 되니까 용건만 말씀 하세요. (『눈물』)

cemsim sikhye nohkwu wasseyo. kumpang k-a pwaya toynikka yongkenman malssumhaseyo.

お昼注文しといて来たんですよ。すぐ行ってみないといけないから用件だけ言ってください。

→ お昼注文しといて来たんですよ。すぐ行かないといけないから用件だけにしてください。

(9)は韓国語において「試行」の意味とも「経験」の意味とも捉えられない例文であり、先行する動詞と [어 보다 e pota] の間にポーズが入り、[보다 pota] が本動詞の用法として用いられた場合を仮定しても、本動詞の多義的な意味と連続する意味を持つと理解することが不可能な例である。また、これらは日本語訳においても全て [てみる] の部分は不要なものである。この場合の [어 보다 e pota] は本動詞 [보다 pota] と補助動詞 [어 보다 e pota] が本来持つとされるいずれの意味も持たないことから、このような用例に関しては [어 보다 e pota] の後続する理由やその意味の規定も容易ではなく、[어 보다 e pota] の慣用的な使い方とみる他ない。⁷

次は日本語の [てみる] に対応すると見られるもう一つの形式である [고 보다 ko pota] について考察してみることにする。

5. [고 보다 ko pota] の意味構造

[고 보다 ko pota] は複文の環境での出現が圧倒的に多いと見られるが、文末においての出現も可能である。

- (10) a. 일단 마시고 { 본다 / 봤다 / 보겠다 / 보자 / 볼까? }
iltan masi-ko { ponta/pwassta/pokeyssta/poca/polkka ? }
一旦飲んで { みる / みた / みる / みよう / みようか }
- b. 정신을 차리고 { * 본다 / * 봤다 / * 보겠다 / ? 보자 / * 볼까? }
cengsinulchali-ko { * ponta/*pwassta/*pokeyssta/?poca/*polkka ? }
気がついて { みる / みた / みる / みよう / みようか }

[고 보다 ko pota] は文末に用いられる際、意志動詞に後続し、原則として無意志動詞には付かず、(10b) の例は非文となる。(10a) は [고 보다 ko pota] の典型的な例文であるが、このような用例から韓国語の母語話者が直観的に感じ取る意味は「取りあえず、飲んでから(ある行為をして) その後、起こるであろう状況を観察 / 認識 / 判断する」という意味であり、[어 보다 e pota] が持つとされる「試行」や「経験」の意味は持たない。

まずは [고 보다 ko pota] が文末に用いられる用例を詳しく観察してみることにする。

- (11) a. 여자도 사회 생활은 하고 볼 거라니까. (『아름다운』 : p.246)
yecato sahoi saynghwalul ha-ko pol kelanikka.
女性も社会生活はしてみるものなんだ。
→ 女性も社会生活はするべきだ。
- b. 불고 안 다니는 한이 있어도 이왕 시험에 임한 바엔 불고 봐야 할 것 같았다. (『아름다운』 : p.246)
pwuthko an taninun hani isseto iwang sihemey imhan paeyn pwuth-ko

pwaya hal kes kahassta.

受かって辞めることになってもせっかく試験を受けるなら受かってみるべきだと思った。

→ 受かって辞めることになってもせっかく試験を受けるなら取りあえず、受からないと。

c. 우선 마시고 보는거죠, 뭐. (『일곱』: p.62)

wusen masi-ko ponun kecyo, mwe.

取りあえず、飲んでみるのですよ。

→ 取りあえず、まずは飲むんです。

d. 나중일이야 어찌 되든 일단은 먹고 봤죠. (『야심』)

nacwungiliya ecci toytun iltanun mek-ko pwasscyo.

後のことはどうなるうが、取りあえずは食べてみましたよ。

: 後のことはどうなるうが、取りあえず、食べましたよ。

(11a)-(11c)は [고 보다 ko pota] は文末に出現する用例であるが、この場合、[고 보다 ko pota] は先行する「行為達成への意志」の意味で捉えられる。[고 보다 ko pota] が複文に現れる場合は「ある行為をしてから、後続の状況を見る（認識する）/理解する/判断する」という意味を持ち、本動詞 [보다 pota] との意味的な連続が認められ、この場合、[어 보다 e pota] と多くの重なりを見せる。複文における [어 보다 e pota] と [고 보다 ko pota] に関しては後述するが、とりわけ、文末の場合においては、[V+고 보다 ko pota] は「取りあえずはVをすることが先だ」から「まずはVを実行・完了するべきだ」という意味を持つ。この場合、[고 보다 ko pota] は [어 보다 e pota] の持つ「試行」の意味は持っておらず、本来 [보다 pota] が持つとされる「認識・判断」の意味も感じられない。これは恐らく、文末の環境において [고 보다 ko pota] の「認識・判断」の内容が提示されないという点と先行動詞との連結を担っている [고 ko] の特性によるものであると考えられる。要するに、[고 보다 ko pota] に先

行する行為の結果は提示されておらず、また [고 ko] で連結される先行動詞と [보다 pota] は別個の事態の連続として捉えられるので、後続する状態への把握よりは先行する行為の達成に焦点が当てられることになり、その故、[고 보다 ko pota] の文末の例からは本動詞と連続する [고 보다 ko pota] の認識の意味が薄れ、先行する行為の達成への意志が強調される意味解釈、つまり語用論的再解釈がなされるということである。(11a)の例の場合、[고 보다 ko pota] に後続する [-ㄴ / 을 것이다 -l/ul kesita] は普通未来時制を表す文型とされ、一人称主語の場合、意志を表すものとして解釈される。ここで [고 보다 ko pota] は [-고 볼 것이다 -ko pol kesita] の形態で「取りあえず(まずは) ~すべきだ」という義務表現としての特徴を帯びることになる。(11c)の場合は「取りあえず飲んでから考える」から「飲むことが優先的にやることである」のように先行する行為の達成の方が焦点化されるので、ここでも [고 보다 ko pota] の認識の意味は浮き彫りにならないということである。このような意味解釈には時制の問題も関わってくるが、(11a)-(11c)の場合は [고 보다 ko pota] に先行する V の実行はまだ成されておらず、この場合は「行為達成に対する強い志向」、(11d)のように [V + 고 보다 ko pota] が過去時制と共に用いられる場合は「行為の完了」つまり、「取りあえず(まずは) ~した」のような意味として解釈されることが分かる。

次は複文における [고 보다 ko pota] の用例を観察する。

- (12) a. 헤어짐을 정해진 사실로 받아들이고 보니, 어느새 여자는…
(『타인』: p.92)

heyecimul cenghaycin sasilo patatuli-ko poni enusay yecanun … .

別れを事実として受け入れてみると、いつの間にか女は…

- b. 어느날 아침 눈을 뜨고 보니, 호박이 덩굴째 방안에 굴러 들어와 있더라는 식이었다. (『일곱』: p.20)

enunal achim nwunul ttu-ko poni, hopaki tengkwulccay panganey

kwule tule wa isstelanun sikiesta.

ある日、目が覚めてみると、鴨がネギを背負って入ってきたという感じだった。

- c. 태석씨 알고 보면 참 좋은 사람이에요. (『가을』)

thaysekssi al-ko pomyen cham cohun salamieyyo.

テソクさん、知り合ってみると本当にいい人ですよ。

→ テソクさん、実は本当にいい人ですよ。

- d. 그리고 보니 현수 기일이 며칠 안 남았네. (『겨울』)

kule-ko poni hyenswu kiili myeochil an namassney.

そう言えば、もうすぐヒヨンスの忌日だね

[고 보다 ko pota] が複文の環境に用いられる場合においては、行為実行後の結果状態が明示されているため、[고 보다 ko pota] の [보다 pota] は既に行われた行為の結果への認識を表すことが可能となる。複文において、[고 보다 ko pota] を用いる前件と後件の関係によって結果に対する認識の意味は様々な様相をみせるが、この点に関しては後節で [어 보다 e pota] との比較を通して詳しく分析することにし、本節では [고 보다 ko pota] の基本的な用法のみを述べておく。[고 보다 ko pota] の用法には慣用的に用いられる用法があり、(12c)-(12d)に見られる下線部の「그리고 보니 kule-ko poni」「알고 보면 al-ko pomyen」などはその出現頻度が高く、日本語に訳すならば「そう言えば」「実は」などのように訳される。いずれにせよ、[고 보다 ko pota] が複文の環境で用いられる場合、[고 보다 ko pota] の認識の対象である結果内容が明示されているため、文末の用法と比べ、その認識の意味が浮き彫りになる。結果的に複文の場合においては「ある行為の完了後に後続する結果を認識する」といった意味をなす。

前述の(7)-(8)の用例で [어 보다 e pota] の場合、[어 보다 e pota] に先行する行為の主語は [어 보다 e pota] の主体と同一でないといけないことを指摘したが、[고 보다 ko pota] の場合においては必ず

しも先行する行為の主語が [고 보다 ko pota] の主体と一致する必要はない。このような点を明確にするため、(7a)-(7b)の例文を [고 보다 ko pota] を用いる例文に変えて、(13)に提示しておくことにする。

(13) a. 비가 오고 보니, 기온이 매우 쌀쌀하다.

pika o-ko poni, kioni maywu ssalssalhata.

雨が降ってみると結構肌寒い。

b. 날이 밝고 보니, 주위에는 사람의 기척이라고는 없다.

nail palk-ko poni, cwuwieynun salamuy kichakilakonun epsta.

夜が明けてみると、周りには全く人がない。

以上を踏まえ、[고 보다 ko pota] の用法を整理すると次のようになる。

[고 보다 ko pota]

- ① 意志動詞に続いて文末や複文に用いられ、文末の場合には「ある行為の完了が最優先である」という「行為の完了」ないし「行為達成への志向」の意味を持つ。
- ② 無意志動詞に後続する際に原則として文末には用いられず、複文で用いられる場合は「ある動作あるいは状況が完了してから、後続する状態を認識する」という意味を表す。この場合、[고 보다 ko pota] の主体と先行する行為の主語は必ず一致する必要はない。

6. [어 보다 e pota] と [고 보다 ko pota] の比較

前述の通り、[어 보다 e pota] と [고 보다 ko pota] は文末環境においてはその意味が明確に区別され、[고 보다 ko pota] は [어 보다 e pota] の「試行」と「経験」の意味を持たない。従って、両者の意味

区別が容易ではないとされるのは複文の環境であるが、これは [어 보다 e pota] と [고 보다 ko pota] が行為の結果状況が明示される場合は両者共において本動詞 [보다 pota] から連続する「認識」の意味が浮き彫りになることに起因していると思われる。本節では [어 보다 e pota] と [고 보다 ko pota] の複文環境においての例を中心に両者の重なりやズレの原因を探ることにより両者の意味の境界線はどこにあるかを明確にすることを試みる。

まずは [어 보다 e pota] と [고 보다 ko pota] の意味区別が容易でない例文を観察してみることにする。

(14) a. 창문을 {열고 / 열어} 보니 눈이 오고 있었다

changmwunul {yel-ko/yel-e} poni nwuni oko issessta.

窓を開けてみると、雪が降っていた。

b. 이야기를 {들어 / 듣고} 보니, 조금은 이해가 간다

iyakilul {tul-e/tut-ko} poni, cokumun ihayka kanta.

話を聞いてみると、少しは理解できそうだった。

c. 내가 같은 일을 {당해 / 당하고} 보니, 그 심정은 말로 다 할 수가 없었다.

nayka kathun ilul {tangh-ay/tangha-ko} poni ku simcengun mallo ta hal swuka epsessta.

私が同じ目に逢ってみると、その心境は言葉では言い表せなかった。

(14a)-(14b)は意志動詞が、(14c)は無意志動詞が先行する複文の例である。以上の例からは [어 보다 e pota] と [고 보다 ko pota] の意味の違いが読み取れず、日本語訳においても両者は [てみる] と対応することが分かる。つまり、日本語においては一つの形式で表現される事象が韓国語には二つの異なる形式に対応しているということになる。(14a)-(14c)に提示した例文は全て複文という環境上、[어 보

다 e pota] と [고 보다 ko pota] 両方とも後続する事態に関する認識という意味を持つことは共通している。[어 보다 e pota] の場合において、[어 e] と [보다 pota] の間に心理的なポーズがあると考えれば、本動詞的な用法の存在も否定できない。従って、(14a)を例に挙げて考えれば、下線部の「開けてみる」と対応する [열어 보다 yel-e pota] と [열고 보다 yel-ko pota] は両方とも「開ける」行為の後の状態を視覚的に認識したという意味として取られるため、複文における両者の解釈はほぼ同様のものになってしまい、益々 [어 보다 e pota] と [고 보다 ko pota] の違いは分からなくなる。もし、両者が常に複文において適格に出現することが出来るのならば、それはそれで「行為の結果認識」の意味が強調されるため、両者が同様の意味を持つと定義することも不可能ではないが、同様の文環境においても片方しか成立しない用例も存在するので、混乱は加重する。

- (15) a. 청소를 {*해 / 하고} 보니, 빨랫감이 쌓여 있다.
 chengsolul {*h-ay/ha-ko} poni, palayskami ssahye issta.
 *掃除をしてみると、洗濯物が溜まっている。
- b. 한참을 {*뛰어 / 뛰고} 보니 벌써 어둑어둑해져 있었다.
 hanchamul {*ttwi-e/ttwi-ko} poni pelsse etwuketwukhaycye issessta.
 *しばらく走ってみると、既に薄暗くなっていた。
- c. 날씨가 {*추워져 / 추워지고} 보니, 겨울 날 일이 걱정되었다.
 nalssika {*chwuwec-ye/chwuweci-ko} poni kyewul nal ili kekceng toysessta.
 *寒くなってみると、冬を過ごすことが心配だった。

(14)-(15)までの例文は全て文連結語尾「니 ni」で接続された文環境における [어 보다 e pota] と [고 보다 ko pota] の出現の様子であり、(14a)-(14b)、(15a)-(15b)の例は意志動詞が先行する用例、また(14c)と(15c)は無意志動詞が先行する用例である。同じ文環境で同

じ意志動詞を用いた(14a)-(14b)、(15a)-(15b)においてこのようなズレを見せることから、その原因は文環境や先行する動詞の種類によるものであるとは想定し難く、両者の出現に制約を与える他の原因を見出す必要性がある。

用例の観察から得た結論を先に述べると、両者の出現制約は連結語尾「ㄴㄴ ni」に先行する文の内容と後続する文の内容の一貫性の有無にあると思われる。換言すれば、「ㄴㄴ ni」によって接続された文の中で、先行する事態、つまり、(14)の例文からみると、「窓を開ける」「話を聞く」は意志を持って行った行為、また「同じ目に逢う」は無意識的に経験した出来事を指しているが、行われた行為、あるいは経験の結果として後続する文の内容としかるべき関連性が認められる場合、[어 보다 e pota] と [고 보다 ko pota] は両方とも適格な文として用いられる。つまり、(14a)は「窓を開けたことによって認知した事実：雨が降る」(14b)は「話を聞いたことによって確認された自分の内面的思考：理解できる」(14c)は「同じ目に逢ったことによって認識した内面的感情：言葉で言い表せないようなものだ」ということを表しており、全て先行する文と後続する文との因果関係が感じられる。

その反面、[어 보다 e pota] が非文となる用例を観察してみると、後続する文は必ずしも先行する事態によって引き起こされたと言えないようなものであることが分かる。つまり、(15a)の「掃除をする」という行為と「洗濯物が溜まっている」という事態との間には<因果関係>と呼べる関係が成立しないことが分かる。(15b)の場合においても「走る」という行為と「薄暗くなっている」という事態の間には<因果関係>が成立せず、走る行為の後に主体が気づいたランダムな状況を叙述しているに過ぎない。このような例文において、[어 보다 e pota] の出現は制限されるが、[고 보다 ko pota] にはこのような制限はない。この傾向性は次の例文の比較において、さらに明確になる。

- (16) a. 밥을 { 먹어 / 먹고 } 보니, 맛이 괜찮았다
 papul {mek-e/mek-ko} poni masi kwaynchanhassta.
 ご飯を食べてみると結構美味しかった。
- b. 밥을 { * 먹어 / 먹고 } 보니, 아이가 보이질 않았다
 papul {*mek-e/mek-ko} poni aika poicil anhassta.
 ご飯を食べてみると, 子供が見当たらなかった。
- (17) a. 테레비를 { 켜 / 켜고 } 보니 한국 드라마를 하고 있었다.
 teyleypilul {kye/kye-ko} poni hankwuk telamalul hako issessta.
 テレビをつけてみると, 韓国ドラマが流れていた。
- b. 테레비를 { * 켜 / 켜고 } 보니, 배가 고팠다.
 teyleypilul {*kye/kye-ko} poni payka kophassta.
 ? テレビをつけてみると, お腹が空いていた。
- (18) a. 청소를 { 해 / 하고 } 보니 별로 어려운 일도 아니었다.
 chengsolul {h-ay/ha-ko} poni pyelo elyewun ilto aniessta.
 掃除をしてみるとそれほど大変でもなかった。
- b. 청소를 { * 해 / 하고 } 보니, 빨랫감이 산더미다.
 chengsolul {*h-ay/ha-ko} poni ppalayskami santemita.
 ? 掃除をしてみると, 洗濯物が山ほど溜まっている。

以上は [어 보다 e pota] と [고 보다 ko pota] が両方成立する文とそうでない文のペアである。比較のため、先行する事態はペアの文で同様に設定してあるが、後件はそれぞれその性質が違う。まず(16a)-(16b)を比較してみると、「ご飯を食べた」という行為が先行し、その行為の結果として認識される内容、つまり「ご飯の味に対する認識」が後続しており、このような場合には [어 보다 e pota] と [고 보다 ko pota] が両方とも適格であるとされるが、(16b)の例では「ご飯を食べる」という行為の結果としてはかけ離れた内容である「子供がいなくなる」という、<因果関係>を含まないような事態が後続する際、[고 보다 ko pota] は成立するが、[어 보다 e pota] は非文とな

ることが分かる。このような傾向性は(17)-(18)においても同様である。勿論、先行する行為と結果の関連性は非常に定義し難いものであるが、少なくとも複文の前件に用いられる [어 보다 e pota] は先行する動詞と後件の関連性という部分において、[고 보다 ko pota] に比べると密接に関わっていると思われる。このような前件と後件の関連性の観点からみると、[어 보다 e pota] に比べ、[고 보다 ko pota] の用例で顕著に現れる「反事実的な事態」ないし「期待に反する事実」に関する認識の意味を表す用法にも適切な説明を与えることが出来ると思われる。

- (19) a. 남들은 딸 잘 뒤서 좋겠다 그러지만 알구 보면⁸ 애물 단지야.
(『눈물』)

namtulul ttal cal twese cohkeyssta kuleciman al-kwu pomyun aymwul tanciya.

他の人は立派な娘でいいねっていうけど、分かってみると苦勞の種よ。

→ 他の人は立派な娘で羨ましいっていうけど、実は苦勞の種よ。

- b. 내가 오늘 이렇게 이 악물고 성공한거는, 다아 그놈이 나한테 수 모를 준 덕분이거든? 그러구 보면 은인일세! (『눈물』)

nayka onul ilehkey i akmwulko sengkonghankenun, taa kunomi nahantay swumolul cwun tekpwuniketun? kule-kwu pomyen uninilsey!

私が今日こんなに歯を食いしばって成功したのは、全てあいつに侮辱を受けたおかげだろう? そうしてみると 恩人なんだな!

→ 私が今日こんなに歯を食いしばって成功したのは、結局あいつに侮辱を受けたおかげだろう。 そう言えば、恩人なんだな!

- c. 아들이라 철썩같이 믿었는데 그러다 놓고 보니 딸이었다.
(『아름다운』: p.62)

atulila chelssekkathi mitessnuntey kuleta nah-ko poni ttaliessta.

男の子だと信じてやまなかったが、生んでみると女の子だった。

以上の例文から見られるように、[고 보다 ko pota] は後件に対する認識の意味を持つが、先行する事態と後続する事態が逆接の関係にあることが例文から受け取れる。つまり、(19a)は「立派な娘」と「苦勞の種」(19b)では「自分を侮辱した男」と「恩人」、(19c)「男の子が生まれるという期待」と「女の子の誕生」という反対の事象とも思われるものに対しての認識を表す際に [고 보다 ko pota] が用いられることが分かる。自分の期待、現在の事実とされている状況からかけ離れた、あるいは矛盾した状態への認識に [고 보다 ko pota] が用いられることは、前述した通り、前件と後件が直接的な関連性を持たないと思われる場合、[어 보다 e pota] の出現は制約を受ける反面、[고 보다 ko pota] の出現には制約がないという事実が関連していると思われる。要するに、[고 보다 ko pota] で連結する二つの事象はその結び付きが密接ではなく、前件と後件の間には特に直接的な因果関係が要求されない。つまり、前件と後件の間の関連性が必要不可欠な条件ではないという点で [어 보다 e pota] との違いを見せる。このような点を踏まえて考えると、[고 보다 ko pota] の表す認識は先行する行為の実行と関連性を持つものである場合でもそうでない場合でも比較的に自由に現れるのに対して、[어 보다 e pota] の認識は先行する行為を実行することによって期待される結果に対するものであるため、その結果内容への限定はできないにしろ、少なくとも行為と関連性が認められる事態を要求する傾向性を持っていることが観察される。

[어 보다 e pota] と [고 보다 ko pota] において、もう一つの違いは以下のような用例に現れる。

(20) a. 철수가 {가/가고} 보니, 편지가 놓여 있었다.

chelswuka {ka/ka-ko} poni, pyencika nohye issessta.

チョルスが 行ってみると / いなくなってみると、手紙がおいてあった。

- b. 철수가 {*가/가고} 보니, 정말 쓸쓸했다.

chelswuka {*ka/ka-ko} poni cengmal ssulssulhassta.

チョルスが いなくなってみると、本当に寂しかった。

- (21) 일이 {*터져/터지고} 보니, 오히려 속이 시원했다.

ili {thec-ye/theci-ko} poni, ohilye soki siwonhayssta.

ことが 起こってみると、逆に気分がすっきりした。

(20a)の例文で [어 보다 e pota] と [고 보다 ko pota] は二つの解釈の異なる文となっている。動詞「가다 kata」の行為者は「チョルス」であるのは両方の文において同様であるが、[어 보다 e pota] を用いる文では「行く」主体と [어 보다 e pota] の主体は同一であると捉えられ、「チョルスが行ってみると手紙が置いてあった」という内容を表し、[고 보다 ko pota] を用いる文は「チョルスが行った」と「私がみる」のように分離されている文である。つまり「チョルスがいなくなると、私がみると手紙がおいてあった」という文である。

前述の通り、[어 보다 e pota] は基本的に先行する行為の行為者と [어 보다 e pota] の認識主体が同一人物でないといけないという制約を持つが、[고 보다 ko pota] の場合は先行する行為の行為者が [고 보다 ko pota] の主体と一致する場合でも、行為者が第三者である場合でも一貫して [고 보다 ko pota] の主体は報告者自身である必要がある。このような傾向性は(20b)の例文で明確に現れる。(20b)の場合は(20a)の例文を後件のみを内面的感情を表すものに変えたものであるが、前件に [어 보다 e pota] を用いる文は非文となる。その原因として挙げられるのは(20b)において [V+ 어 보다 e pota] の主体は「チョルス」であるため、後件が第三者の内面的な状態の叙述と成り得ないからであると思われる。これに対して、[고 보다 ko pota] の場合

は先行する動詞の行為者が自分であれ、第三者であれ、[고 보다 ko pota] の主体は常に報告者自身であるので、報告者自身の心理状態が後件に現れることが可能であるということである。(21)の例文は [어 보다 e pota] に先行する動詞の主語が無生物であるため、当然 [어 보다 e pota] の主体としても機能できず、[어 보다 e pota] を用いる文は非文となるが、[고 보다 ko pota] を用いる文は問題なく成立することが分かる。

7. 結論

本稿では [어 보다 e pota] と [고 보다 ko pota] の意味規定における混乱を解決するため、連結語尾の違いに注目し、考察を行った。文末において [어 보다 e pota] は「試行」の意味を持つとされ、文末で無意志動詞が [어 보다 e pota] に先行する場合は「先行する行為を経験する」という意味を持つ。このような [어 보다 e pota] の経験の意味は意志動詞が先行する場合においても観察される。無意志動詞が先行する場合は、それと [어 보다 e pota] の間に<手段-目的>の関係は成立しないことから、「試行」の意味を表すことは出来ず、「試行」と時間的に隣接した「経験」の意味へ移行するとみることが出来る。しかし、意志動詞が先行する場合の「経験」の意味は大変文脈依存的であり、先行する動詞と [어 보다 e pota] の関係を<手段-目的>としてみるか、あるいは単なる<因果関係>としてみるかにかかっていると思われる。

一方、[고 보다 ko pota] は先行する「行為の達成」を表すと思われる、時制との関連で「行為達成への意志」あるいは「行為達成」そのものを意味する用例が観察される。このような [어 보다 e pota] と [고 보다 ko pota] の違いは [어 e] [고 ko] による連結の様相の違いに起因していると思われる。[고 보다 ko pota] の場合は、で連結される先行動詞と [어 보다 e pota] は別個の事態として捉えられ、この場

合、[어 보다 e pota] に見られる<手段—目的>関係は読み取れない。さらに、文末においては[보다 pota] の認識の対象が示されないため、[고 보다 ko pota] における[보다 pota] の認識の意味は薄れ、もっぱら先行する行為の達成に意味的焦点が当てられるようになる。

文末においては比較的[어 보다 e pota] と[고 보다 ko pota] の意味区別は明確なものであるが、両者の意味の違いが最も見えにくいのは両者が複文環境に現れる場合である。本稿ではこれに[어 e] [고 ko] による連結の違いを持って適切な説明を与えることを試みた。複文環境において、[어 보다 e pota] はそれに先行する行為の結果、生じた結果状態を要求する。換言すれば、先行する行為の結果としてふさわしくない、あるいは先行する行為の結果として関連性に欠ける後件への認識は[어 보다 e pota] で表わすことができないということである。反面、[고 보다 ko pota] の場合は先行する動詞と[보다 pota] による認識を別個のものとして捉えるという特徴を持つため、行為後のランダムな認識を表すことが可能である。

以上の考察から[어 보다 e pota] と[고 보다 ko pota] の重なりやズレの原因は連結語尾[어 e] [고 ko] の違いにあり、[보다 pota] で表わされる認識を先行する行為と関連性のあるものに限定するか、そうでないかが両者の意味区分の基準となるということを確認した。

注

- 1 [-아/어/여 보다 a/e/ye pota] の [아/어/여 a/e/ye] の連結語尾部は先行する動詞の連結形の最終母音の種類による、つまり、音声学的な環境による異形態であるので、便宜上、これ以降 [-아/어/여 보다 a/e/ye pota] は [어 보다 e pota] に、連結語尾のみを表示する場合には [아/어/여 a/e/ye] を [어 e] に統一し、簡略に表すことにする。
- 2 以下、[고 보다 ko pota]
- 3 韓国語において、通常「補助形容詞」と分類される [보다 pota] の用法があり、疑問形語尾に後続し、モダリティ的な意味を表すものとされる。この用法は視覚を表す本動詞 [보다 pota] とその音形が同一である。その故、Ho (2003) の研究における補助用言 [보다 pota] という用語は補助動詞 [어/고 보다 e/kopota] と補助形容詞 [보다 pota] を合わせて指すものである。
- 4 임호빈他 (2003) p.166
- 5 고영근, 남기심 (1998) の連結語尾の分類によると、[어 e] は従属的なものと補助的なものに広く用いられるが、従属的に用いられている場合は [어 e] の後に [-서 se] が付くことが可能であるとしている。本稿では V1 [어 e] V2 の関係において、連結語尾 [어 e] を従属的な接続とみるため、文連結の場合の連結語尾 [어서 ese] と [어 e] を同類のものとして扱う。
- 6 V1—V2 の連結における連結語尾 [어 e] と [고 ko] に関連する研究として Lee(2001) が挙げられる。Lee(2001) は韓国語の移動動詞における補助動詞連結に関する研究で、[어 e] は先行動詞と後続動詞を一つの概念的なまとまり (a conceptual unity of the sequence of two verbs) つまり、連続した事態として捉えるのに対して、[고 ko] は先行動詞と後続動詞を分離した別個の事態 (conceptual separation involving two distinct events) として捉えると述べている。

① a. ilk-ekata	b. mil-epelita	c. mil-ecwuta
read-CONSGo(AUX)	push-CONStrow(AUX)	push-CONSGgive(AUX)
read(PROG)	push(PERF)	push(BENEF)

② a. mek-ko masita	b. mil-ko tangkita	c. kkul-ko tanita
--------------------	--------------------	-------------------

eat-ISOL drink	push-ISOL pull	pull-ISOL go around
eat and drink	push and pull	pull, going around

[Lee(2001) p. 227]

- 7 このような用例を従来の研究では「婉曲用法」として分類しているが、その理由の一つはこの類の [-어 보다 e pota] が相手に対してある行為を要求する文と共に出現する頻度が高いことに起因していると思われる。しかし、(9a)-(9b)の例文からはこのような「婉曲」の意味はさほど窺えないことから、「婉曲」という分類は命令文との関わりで生じた意味である可能性もあり、これに関しては再考の余地が残る。
- 8 [-알구 보면 al-kwu pomyen] の下線部は [-고 보다 ko pota] の連結語尾 [-고 ko] が口語体で用いられる場合、[-구 kwu] のように音声変化を起こしたものであり、別の形態ではない。

参考文献

- 고영근, 남기심 (1998) 『표준국어문법』 탐출판사
- 국립국어원 (2016) 『외국인을 위한 한국어 문법 1』 커뮤니케이션 북스
- 국립국어원 (2016) 『외국인을 위한 한국어 문법 2』 커뮤니케이션 북스
- 서 정수 (1996) 『현대 국어문법론』 한양대학교 출판원
- 손 세모듈 (1996) 『국어보조용언연구』 한국문화사
- 송 효빈 (2002) 「동사 ‘보다’ 의 인지적 연구」 『한국언어 문학 49 권』 pp.585-601
- 이기종 (2001) 『우리말의 인지론적 분석』 도서 출판 역락
- 임효빈, 홍경표, 장숙인 (2003) 『외국인을 위한 한국어 문법』 연세대학교 출판부
- 정연희 (2017) 「국어 보조동사 구성 -어 보다 의 의미 변화와 문법화」 『담화와 인지 제 24 권 3 호』 pp.53-75
- 허용 (2018) 『외국어로서의 한국어 교육학 개론』 도서출판 박이정

- 호광수 (2003) 『국어 보조 용언 연구』 도서 출판 역락
- 生越直樹 (1991) 「朝鮮語 어 보다, 고 보다 と日本語 てみる」『日本語学 (vol.12)』 pp.90-112 明治書院
- 森田良行 (1994) 『動詞の意味論的文法研究』 明治書院
- 森田良行 (2002) 『日本語文法の発想』 ひつじ書房
- 関由眞 (2002) 「補助形容詞「보다 pota」と本動詞「보다 pota」の意味的連続性について」『KLS 22』 Kansai Linguistics Society pp. 181-189
- Lee, Jeong-Hwa (2001) A Cognitive Approach to Connective Particles e and-ko: Conceptual Unity and Conceptual Separation in Korean Motion Verbs *Japanese/ Korean Linguistics Vol. 9* pp.225-238
- Lee, Keedong (1997) *A Korean Grammar on Semantic-Pragmatic Principles* 한국문화사
- Ono, Tsuyoshi (1992) The grammaticization of the Japanese verbs oku and shimau *Cognitive Linguistics 3* pp.367-390 Walter de Gruyter

例文出典

- 『타인』 은 희경 (1998) 『타인에게 말걸기 (他人への話しかけ)』 문학동네
- 『아름다운』 박 완서 (2004) 『나의 아름다운 이웃 (私の美しき隣人)』 작가정신
- 『일곱』 김 성종 (2007) 『일곱개의 장미송이 (七輪のバラ)』 도서출판 남도
- 『눈물』 『눈물이 보일까 봐』 放送シナリオ (MBC TV 1999 放送)
- 『야심』 『야심만만』 放送シナリオ (SBS TV 2003. 2. 28 ~ 2008. 1.14 放送) 『가을』 『가을 동화』 放送シナリオ (KBS 2TV 2000. 09. 18 ~ 2000. 11. 07 放送)
- 『겨울』 『겨울 연가』 放送シナリオ (KBS 2TV 2002. 01. 14 ~ 2002. 03. 19 放送)